

2015.7.23 提出 視察報告書 町田市議会 個人視察（保守連合） 吉田つとむ
視察先 トヨタ鞍ヶ池記念館
実施日 平成 27 年 7 月 15 日 午後

施設について

トヨタ鞍ヶ池記念館は、トヨタ車生産台数累計 1,000 万台達成を記念して、昭和 49 年（1974）9 月に竣工しました。

トヨタ自動車では、「第二の創業期」を迎え、各種の構造改革に取り組んでいます。この機会に、長年にわたり皆様にご高覧いただいた展示室を「トヨタ創業展示室」として内容を刷新するとともに、トヨタ自動車の創業者・豊田喜一郎の生前の別荘を当記念館の一角に移築修復し、当時を偲んでいただくことといたしました。

わが国における本格的な自動車工業の確立に挑戦し、幾多の困難に立ち向かい、それら乗り越えていった喜一郎とその仲間たちの活動の足跡をたどりながら、トヨタ自動車創業期のチャレンジ精神ならびにトヨタグループのモノづくりの心を感じていただければ幸いです。（トヨタ自動車：トヨタ鞍ヶ池記念館の案内 HP 文章を引用）

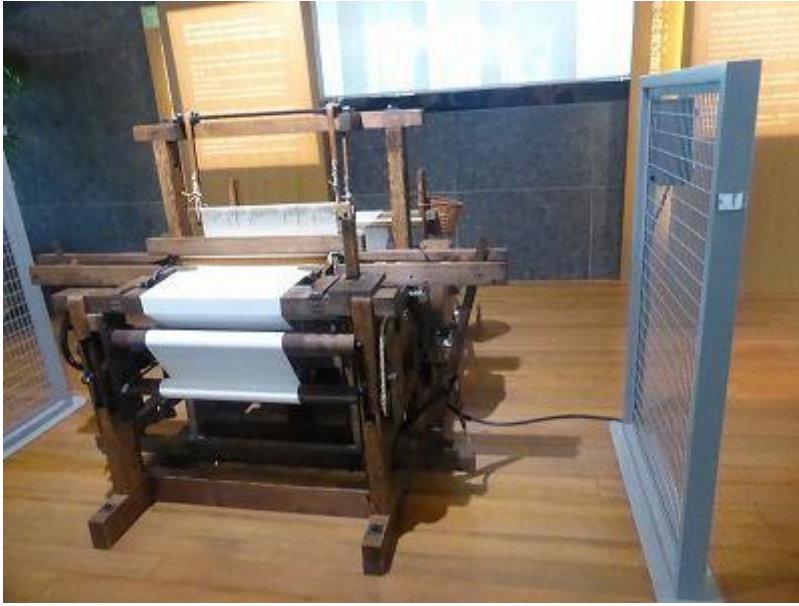
所見

トヨタ自動車のトヨタ鞍ヶ池記念館を見学しました。トヨタ自動車の草創期の技術や企業の取組に関して、展示するものでした。

記念館の展示物や、その他の資料からうかがえることは次のことでした。

創業者の豊田佐吉が作り上げたのが自動織機（現；豊田自動織機）で、その世界屈指の自動織機技術で日本の繊維産業も大躍進し、日本の近代化の基礎を作る一つになりました。一方で、海外にも工場進出を果たすことになり、大正 13 年には、その自動織機技術をイギリスの大手企業のプラット・ブラザーズ社に技術供与して大金を得ています。そのプラット社は、以前に日本に自動織機を輸出してきた企業でした。

その間の特徴では、織機の開発では当初、自分の母親のため、村の発展のために研究に取り組み、初歩的技術から最新技術に連続的に飛躍させていることです。克明にノートをつける習慣がその技術を裏付けたようです。＊これは、ファスナーとアルミサッシで有名な YKK の創業者と似た性格を示しています。創意工夫がこれらの世界トップ企業を生み出した背景にあるようです。以前に、YKK（富山県）の複数の工場と資料館を視察見学した経験があります。



ちなみに、現在の豊田自動織機は、その自動織機製造のトップ企業であるだけでなく、事業規模では自動車とその関連機器製造事業が主力となり、さらにはフォークリフト製造部門では世界トップになっています。

その豊田自動織機から分離したのが、自動車部門で現在のトヨタ自動車に至っています。

次いで、息子の豊田喜一郎が開発・導入したのが自動車部門であり、日本にもフォード社がロックダウン方式(組立)工場や、GMが製造工場を進出させる時代になっていました。

改めて、その製品としての自動車を見ると、世界一、世界初と言う印象を受けるものを発見することができず、不思議に思えました。豊田自動織機が世界トップの製品を作り上げ、その特許権譲渡によって大金を得たこととは対照的でもあります。*ちなみに、現行のハイブリッド「プリウス」、水素燃料自動車「みらい」の開発、製造・販売が実現した時点で初めて自動車産業の企業としては、世界トップクラスの企業になったと評価されるだろう。

むしろ、製造工業の技術、あるいは部品製造・管理で世界一になったのではなかろうか。今回、工場見学を始めて行って感じた次第です。いわゆる看板方式・ジャストインタイム方式と言われる製造システムがトヨタ自動車の今日までのあり方を作ってきたものと見なしています。*トヨタ自動車工場見学の稿で別掲。

美術展示施設を併設している(写真撮影は不可)ことと、入場無料が特徴でした。母体となった、豊田自動織機の紡織機が展示されていることも印象的でした。

